建築人

3

2013

大阪ホンマもん

建築によって都市に何が提案できるのか。このテーマこそ前川國男が生涯を賭けて追い求めたものだったのだと思う。それは、さかのぼれば、一九三五年、レーモンド事務所から独立して最初に手がけたデビュー作、森永キャンデーストアー銀座売店に始まる。また、直前の一九三三年には、コンペで一等を獲得した明治製菓銀座売店が同じ銀座通りに面して竣工していた。そして、戦争を挟んで戦後に入ると、前川は新宿の闇市の先に木造の紀伊國屋書店を手がけることになる。設計を依頼した創業者の田辺茂一は次のような回想を残している。

「ようやく新宿の町並みも復興の兆しが見え始めた昭和二十二年のある日、私は友人戸沢民子さんと野口謙二郎氏（野口弥太郎の令弟）を南平台の邸に訪ねたが、その邸の建築の、豪壮、そして茫洋さが気にいった。設計建築の名をたずねると、前川國男氏であった。（中略）建築資材も、まだ充分でなかった頃である。私は前川さんに一切をお願いした。そしてめでたく、昭和二十二年五月二十三日、復興第一歩の、花崗岩と木材を配した、新しい型の書店が誕生した。店内に、パリから帰朝の荻須高徳の五十号の油絵などを飾った。」（『日本経済新聞』一九七六年九月十五日）

この書店は活字に飢えた人々のよりどころとして戦後文化史にその名を残している。その後、日本は急速に復興し、新宿も大都市へと変貌を遂げていく。そんな中、この店舗を建て替え、鉄骨鉄筋コンクリート造、地上九階の堂々とした自社ビルとして一九六四年三月に竣工したのが紀伊國屋ビルディングである。東京オリンピック直前のことだった。田辺を支え後に社長を引き継いだ松原治は新店舗について次のように記している。

「昭和三十年代に入って、本店店舗の老朽化が大きな問題になっていた。外観こそ瀟洒な建物だったが、実質は木造の二階建て。設計者の前川國男さんによると、室内に立つ柱は電信柱か何かを削ってつくるはずだったが戦後まもなくで資材がくるはずだったが戦後まもなくで資材が

前川が設計に着手したのは一九五六年十二月、しかし、立ち退きの交渉やテナントの誘致、資金面での困難もあって、完成まで八年の歳月を費やすことになる。ようやく竣工した際、前川は次のような文章を記している。

「この新しい建築に入居されるテナントの方々の総数は四〇に近いことを思えば、この建物をつくることそれ自体、小さな町づくりであるといえましょう。私共が

ここで前川が試みたのは、前面に雨宿りできる小さな広場を設け、細長い建物の中に通り抜けのできる街路を引き込み、上階に四〇〇席の紀伊國屋ホールと画廊を盛り込むことだった。それは、文字通り、「小さな町づくり」に等しい作業だったに違いない。また、だからこそ、前川は「一息つける場所」をつくろうと願ったのだと思う。こうして、前川建築の代名詞ともなる大型の炻器質タイルを打込んだ両袖の外壁とプレキャスト・コンクリート製の水平庇によって人を招き寄せる彫の深いファサードが出現する。しかし、完成した建物を前に、担当者の一人は次のように記さずにはいられなかった。

「この建物をやって居る間、われわれはさまざまな大きな問題が残されていることを痛感している。たとえば、次々と建てられていくビルが、新宿副都心計画の中で、それぞれどの様な役割を果たすべきか、手さぐりのまま、勝手気ままに建っていくように思えること。又これから、こういった種類の建物の寿命を、どの様に考えたらよいのであろうか、等々である。」（土屋巌『建築』一九六四年五月号）

こう指摘された危惧は現代の都市へとつながる。そして、今から四九年前に、前川が手を差し伸べるように都市の居場所をつくろうとした紀伊國屋ビルディングは、その方法を受け継ぐ者が見えないまま、今も都市の行方を見守っている。

記憶の建築

松隈　洋

紀伊國屋ビルディング　1964年
都市の居場所をつくる

新宿通りに面した建物正面の現況

揃わず、やむを得ずお座敷用の磨き丸太を探してきて室内の丸柱として間に合わせたという。建替えは経営課題だった。また、戦後すぐからの不法占拠をいつまでも放置しておくわけにもいかなかった。（中略）財産管理が悪かったため一部を不法占拠され、五坪くらいの小さな店が表通りに面して計十数軒も並んでいた。（中略）新ビル建設はこの問題も併せて解決することを目的としていた。」（『日本経済新聞』二〇〇四年二月十七日）

この建築の実現にあたって当面したいろいろな困難な問題は、そのまま現代都市の建設にわれわれの直面する困難と障害の縮図のようなものであったといえます。（中略）われわれは渇ききった砂をかむような町の中に、何か一息つける場所をつくりたいと随分考えた心算ですが、本当の勝負はこれからであります。」（『紀伊國屋ビルディング竣功記念パンフレット』一九六四年）

松隈　洋

京都工芸繊維大学教授。博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

テクノロジー Technology

名建築の壮麗な外壁を「曳家工法」で新築マンションに再生利用

－ 94 年前の歴史的名建築の外壁をそのまま現代に －

川瀬普也　藤川智徳　松本ひかり　世古信之

川瀬普也
一級建築士
1989年 大阪工業大学工学部I部建築学科卒業
現 株式会社IAO竹田設計 執行役員
大阪第一事務所所長

藤川智徳
一級建築士
1995年 大阪工業大学短期大学部建築学科卒業
現 株式会社IAO竹田設計 室長

松本ひかり
一級建築士
2004年 神戸大学工学部建設学科卒業
現 株式会社IAO竹田設計 主任

世古信之
1級施工管理技士
1996年 近畿大学工学部建築学科卒業
現 鹿島建設株式会社関西支店建築部課長

写真1　2階窓枠テラコッタ

写真2　2階ボーダーテラコッタ
テラコッタタイルが非常に複雑に取り合っているため、現状のままの取り外しは困難!

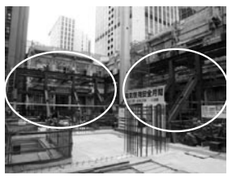


写真3

写真4

■はじめに

現在、設計 株式会社 IAO 竹田設計、施工 鹿島建設株式会社による、オリックス不動産株式会社発注の分譲集合住宅『グランサンクタス淀屋橋』新築工事において、歴史的建築物である「旧大阪農工銀行ビル」の外壁の一部を、「曳家（ひきや）工法」により移動させ、新築集合住宅の外壁に原形のまま保存するという計画を進めている。

■背景

旧大阪農工銀行ビルは、これまで内外装共に改築・改修を重ね、時代と共に形や用途を変えながら歴史を紡いできた建物である。特に外観は改築当時とほぼ変わらない姿で残っており、外装の優美な外観を構成しているテラコッタタイルも歴史の風合いを感じさせる。

また、この旧大阪農工銀行ビルの建つ三休橋筋は、他にも近代建築が多く建ち並び、ガス燈や歩道などのプロムナード整備もなされ、歴史の感じられるまちなみの形成が進められている。この建物の美しい外観は、雰囲気豊かなまちなみの形成に大きく寄与していた。

地域の人々に親しまれてきた景観、まちなみを残していく為、建築を保存する計画がスタートした。保存計画にあたっては、事業性と建築保存を両立させ、かつ景観に寄与できるということで、「外壁保存」が選択された。

本計画は、外壁を保存し、分譲集合住宅というまさに現代的な用途を融合させるという、建物に新たな歴史を紡ぐ試みとなった。

さらに外壁保存の手法においても数々の工法の可能性が検討されたが、なかでも最も現状に近い状態での保存が可能な工法と考えられる、「曳き家工法」を利用した手法を採用することとなった。

■他の工法の問題点と、「曳家工法」のメリット

外壁ファサード（正面部分）を保存・再利用する他の方法としては、①外壁躯体をパネル状に切断し、新築躯体が完成した段階で取り付ける方法、②ファサードを構成しているテラコッタタイルや石材をそれぞれのパーツで取り出し、新築躯体に改めて取り付ける方法などが考えられる。

ところが、①の方法では、壁の厚みが 400㎜以上と厚いため、パネルが 10t を超える重量となる点、また切断箇所が多くなり、ファサードを多く傷める点などが懸念された。

一方、②の方法では、複雑な形状の装飾テラコッタを目地に沿って破損させずに取り外すことが極めて困難であり、①と同様、現状のファサードを傷めることが懸念された。

これらと比較して、「曳家工法」では外壁ファサードを切断することなく、かつ、ファサードをほとんど損傷させずに移動することが可能との結論となった。

■「曳家工法」の施工手順

もともと「曳家工法」とは、道路拡幅などに伴う建物の移動や耐震補強のため、建物全体をジャッキにより一時的に持ち上げ、レール上を「押す」もしくは「引く」という工法である。今回は東側と北側の外壁を「L 字型」に残した状態で既存建物を解体し、外壁を所定の位置（マンション建設位置）まで移動した。施工手順は、まず転倒防止のため万全の安全対策を施し、移動用レールの敷設など準備作業を行なった後、油圧ジャッキを用いて慎重に壁を押していくこととなる。

①保存壁の転倒防止のための鉄骨補強設置

まず、転倒防止措置として、壁の内側に鉄骨補強（写真 3 の囲み）を設置する。万が一の事故を防ぐための安全対策として実施した。

②壁の自重を受け、足元で壁を切断

壁の重量を受けとめるため、壁の足元に鉄骨製の桁（けた）を通し、その桁の下にジャッキ（写真 4 の囲み）を入れて支えながら、壁全体を足元から切断していく。

③油圧ジャッキで移動

ジャッキの下にレール（写真 5 の囲み）を敷設した後、さらに巨大な油圧ジャッキを使用して、200㎜／１ストローク（60㎜／分）の速度でゆっくり壁を押していく。

■「曳家」の実施状況

今回、「曳家」を三段階に分けて行った。最初に全体を南方向に約 4.4m 移動し、次に西方向に約 1.6m 移動、最後に新築建物形状に合わせるため、北側の壁を途中で切断し、間を広げるための移動も実施した。

【第１段階】壁をＬ字型のまま約 4.4m 南へ移動する。（図１では黒からグレー）

【第２段階】そのまま約 1.6m 西へ移動する。（図２では黒からグレー）

【第３段階】新築マンション外壁の長さに拡張するため、北面（図３の左側）の壁を切断し、約 2.0m 西へ移動する。（図３では黒からグレー）

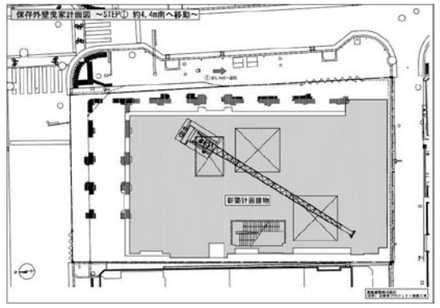


図1

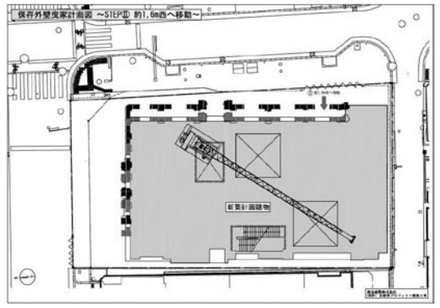


図2

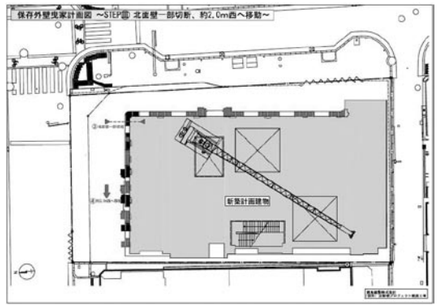


図3

■曳屋工事中の転倒防止対策

転倒防止を施した状態での曳屋工事を実現させる為に、圧縮側、引張側に対する転倒防止材を内部側に設置した支持鉄骨を既存壁とつなぐ計画とした（写真 6・7）。

また、XY 方向に移動する既存壁をいかにスムーズに、かつ転倒させない為に、工夫を凝らしている。

圧縮側の支持材を段階により小割りできるよう、コマ材を継ぎ合わせたり（写真 8）、引張側の材料にネジ鋼棒を使用する（写真 9）ことで、移動に伴い伸縮に対応できるようにした。

その他、新築躯体との固着方法や、新たに復元する部分の復元方法など、通常の新築物件にはない、保存建築特有の問題点を、様々な工夫や技術を駆使しながら、ひとつひとつ確実に工事を進めている。

■現況

現在、現場では、保存・再生利用する外壁を同じ敷地内のマンション建設地点に移動完了し、躯体工事を着々と進めている。いよいよ来秋には、一世紀に亘って大阪の人々から愛されてきた壮麗で美しい壁面に飾られた『グランサンクタス淀屋橋』が完成、全 60 戸の新しい生活がスタートする。

これまで 100 年近くもの間歴史を重ね愛されてきた建物が、新たな歴史をスタートし、これからこの集合住宅に住まわれる方々にも愛され続けていく建物となることを願いながら、建物完成までつくり上げていきたい。

■参考

旧大阪農工銀行ビルの歴史

・大正 7 年（1918）
辰野片岡建築事務所の設計により、レンガ造りの大阪農工銀行ビルが竣工

・昭和 4 年（1929）
國枝博の設計により、大規模な改修を実施

・昭和 43 年（1968）
民間の繊維商社が建物を入手し、オフィスビルとして使用

・平成 22 年（2010）
オリックス不動産が建物を入手し、マンションへの建替えを計画

・平成 23 年（2011）
4 月、鹿島が建物の解体、および一部外壁を保存しながらのマンションの新築工事に着手

・平成 24 年（2012）
9 月末、3 回にわたる保存外壁の「曳家」を完了

■建築概要

名　称：グランサンクタス淀屋橋
所在地：大阪市中央区今橋 3-20-1（地番）
交　通：大阪市営地下鉄御堂筋線・京阪電鉄京阪本線「淀屋橋」駅より徒歩 3 分
大阪市営地下鉄堺筋線・京阪電鉄京阪本線「北浜」駅より徒歩 5 分
用途地域：商業地域
敷地面積：774.13㎡
建築面積：486.79㎡
建築延床面積：5666.09㎡
構造・規模：鉄筋コンクリート造／地上 13 階、地下 1 階建
総戸数：60 戸（他、店舗 1 戸）
専有面積：56.09㎡～ 78.83㎡
間取り：1LDK+S ～ 2LDK+S
バルコニー面積：4.56㎡～ 12.32㎡
駐車場：機械式 10 台　駐輪場：60 台
バイク置場：バイク 2 台、ミニバイク 6 台
竣工予定：2013 年 7 月（予定）
入居予定：2013 年 9 月（予定）
事業主（売主）：オリックス不動産株式会社
設計・監理：株式会社 IAO 竹田設計
施工会社：鹿島建設株式会社
販売提携（代理）：
株式会社プロヴァンスコーポレーション
管理会社：株式会社ジャパン・リビング・コミュニティ

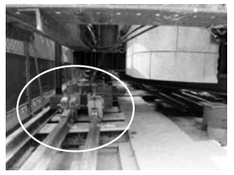


写真5

・内部にフレーム鉄骨を設置

写真6　内部フレーム鉄骨設置状況

・引張鋼棒・圧縮鋼材を設置

写真7　引張材（上段）・圧縮材（下段）設置状況

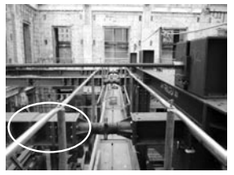


写真8　圧縮鋼材の機構（平行方向）

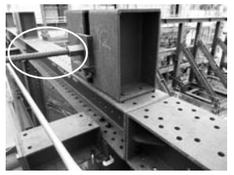


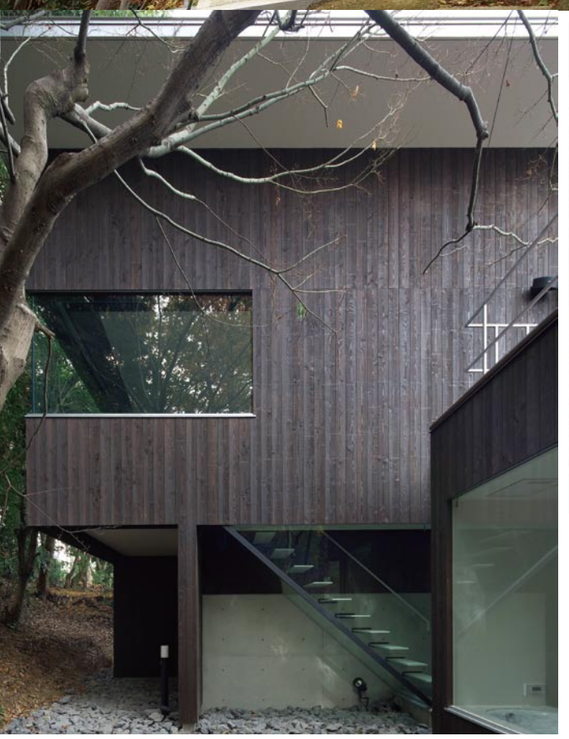
写真9　引張鋼材の機構（平行方向）

集合住宅の一部に保存された壁面
（1.2階部分。完成予想図）

現地案内図

深谷山荘

設計：マニエラ建築設計事務所
施工：笠谷工務店

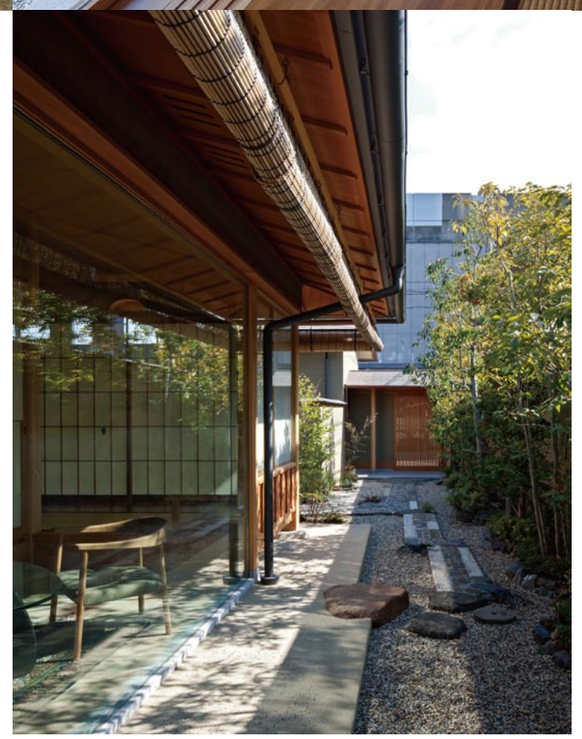


敷地は六甲の自然と共生する緑豊かな住宅街の中、道路から10Mほど高い山の中腹に位置する。敷地の全貌が見えない道路から住宅も貫いた長い一枚のコンクリート壁が導いてくれる。動線は玄関からさらに高い2階へと空中を登るようにガラスで囲まれた階段へと続く。2階から眺望を妨げないよう、出隅角はすべてガラスとし、柱をなくしている。1階はプライベートな寝室や子供室、洗面浴室を配置し、眺望を獲得する2階は大きなワンルームとすることで内部も広がりを持たせている。プロジェクターを下ろせば2階はくつろぎのシアターへと変貌する。

所 在 地：兵庫県西宮市
用　　途：専用住宅
竣　　工：2012.12
構造規模：木造
　　地上２階建
敷地面積：547.38㎡
建築面積：84.38㎡
延床面積：129.19㎡
写　　真：下村康典

針中野の家

設計：木原千利設計工房
施工：藤木工務店



この住まいは母屋の南庭を挟んだ南の敷地に建つ。
元々の見慣れた庭の眺めを今度は反対側から見て、母屋を景色としている。南面道路側に塀を巡らせ数寄屋門へと繋げた。その護られた塀の内側を和庭のアプローチとし、和室棟を趣ある風景にしている。
大阪の街中にあり、静かな環境を護る事が出来たのと、街中でも数寄屋のスタイルを保っていける事が出来たように思う。内部においては今どき手に入りにくい銘木を母屋から取り外し、玄関、和室等に再利用を行った。元から在る物を使って新しい命を与え、継承させる事が出来たのも特徴として挙げられる建物である。

所 在 地：大阪府大阪市
用　　途：専用住宅
竣　　工：2011.5
構造規模：木造　２階建
敷地面積：492.60㎡
建築面積：279.82㎡
延床面積：419.35㎡
写　　真：松村芳治

箕面の家

設計：井上久実設計室
施工：阿佐建築工務

旧家のリフォームとご子息世帯のハナレの新築です。敷地内に蔵や納屋、賃貸住宅、車庫などが点在し、母屋のリフォーム後、敷地を分割することでハナレの新築を実現しました。
白といぶし銀の外観は、母屋の漆喰や瓦と調和しながら、新旧の対比が強調されるよう、現代的な素材としました。チタン亜鉛合金で覆われたボリュームは2階から迫り出し、敷地の奥にあるハナレの存在を強調しています。内部ではトップライトからの直接光が階段室のタイル壁に陰影を与え、無窓の空間に明るさと豊かさを供しています。建て込んだ環境の中、2階の大開口は箕面市街の広がりと内部空間を繋げています。

所 在 地：大阪府箕面市
用　　途：専用住宅
　　（ハナレ）
竣　　工：2012.9
構造規模：木造　2階建
敷地面積：1085.64㎡
建築面積：67.00㎡
延床面積：124.00㎡
写　　真：冨田英次

第６回
建築人賞

主催：社団法人 大阪府建築士会
後援：社団法人 大阪府建築士事務所協会

『建築人』Gallery 掲載作品 募集中

会報誌『建築人』では、Gallery に 掲載する作品を募集しています。
詳しくは、社団法人大阪府建築士会『建築人』Gallery 建築作品掲載係まで。

【掲載料】カラー　２ページ　２０万円
　　カラー　１ページ　１０万円
　　モノクロ ２ページ　１０万円
　　モノクロ １ページ　　５万円
　　※モノクロページは住宅作品に限ります

社団法人大阪府建築士会では
本誌「建築人」の Gallery に掲載された建築作品を対象に
社会性、芸術性、時代性を考慮して、顕彰、公表することにより
建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的として
建築人賞を実施しています。

建築人賞 記念盾 「未来へ！」
グラスアーティスト 三浦啓子作

■ 表彰（設計者に対して）
建築人賞　　（賞状と記念盾）
建築人奨励賞（賞状）
※建築主・施工者には感謝状授与

■ 第６回 対象作品
「建築人」2013 年 1 月号から 2013 年 12 月号まで
Gallery に掲載された建築作品
※建築種別、建築地を問わない。但し、竣工検査済証を受けたもの

■ 審査方法（２段階審査）
一次審査　建築人誌面より選定
二次審査　二次審査資料により選定（現地視察含む）

■ 受賞発表
建築人 2014 年 7 月号誌面（予定）

■ 問い合わせ
社団法人大阪府建築士会「建築人賞」係
TEL 06-6947-1961　　FAX 06-6943-7103

INFORMATION

Sponsorship
建築士会からのお知らせ

建築士法にもとづく「建築技術講習会」
平成24年度 第6回
知らないと損する最新の避難計画
3/22　CPD3単位[統括]

建築士法第22条の4第5項に基づき、平成24年度第6回目の建築技術講習会を実施します。本講習会は年6回のシリーズで、効率よく広範囲の学習をしていただけるよう、各回の内容が異なります。
日時　3月22日(金)　13:30～16:15
会場　大阪府建築健保会館6階ホール
　　大阪市中央区和泉町2-1-11
内容　・東日本大震災を教訓とした
　　大阪府の防災対策について
　　・津波避難ビルの計画要件
定員　150名(定員に達し次第締切)
受講料　建築士会会員3,000円、
　　一般5,000円(テキスト代含)

知っていると得する
平成24年9月の基準法改正の解説
既存不適格建築物に関する規制講習会
3/29　CPD4単位

国土交通省では、容積率の算定の基礎となる延べ面積の算定方法の合理化、既存不適格建築物に関する規制の合理化について建築基準法施行令及び関連省令・告示を改正し、平成24年9月20日に公布・施行され、これに伴い、技術的助言が発出されています。この度、大阪府および一般財団法人大阪建築防災センター建築確認検査機構のご協力をいただき講習会を開催いたします。
日時　3月29日(金)　13:30～17:30
会場　大阪府建築健保会館6階ホール
　　大阪市中央区和泉町2-1-11
内容　・大阪府建築基準法施行条例の
　　改正について
　　講師：平山英(大阪府審査指導課総括主査)
　　・令第137条の2関係
　　講師：松尾十志宏
　　(大阪建築防災センター企画審査部)
　　・令構造関連
　　講師：小倉秀治
　　(大阪建築防災センター構造審査部)
定員　100名(定員に達し次第締切)
受講料　建築士会会員4,000円、
　　一般7,000円(テキスト代含)

二級建築士／設計製図
受験対策講習会
実力養成コース　7/14～9/8
直前対策コース　8/25～9/8
模擬テストⅠ・Ⅱ　9/1、9/8

■実力養成コース(全10回、模擬テスト2回含む)
日程　7月14日(日)、7月15日(祝)、7月21日(日)、7月28日(日)、8月4日(日)、8月11日(日)、8月18日(日)、8月25日(日)、9月1日(日)、9月8日(日)
時間　9:30～16:30
会場　大阪府建築健保会館
定員　50名(申込先着順)
受講料　建築士会会員(準会員)110,000円、一般125,000円
※平成25年3月31日までにお申込みの方は、受講料が下記の通り割引となります。
建築士会会員(準会員)100,000円、一般115,000円
■直前対策コース(全3回、模擬テスト2回含む)
日程　8月25日(日)、9月1日(日)、9月8日(日)
時間　9:30～16:30
会場　大阪府建築健保会館
定員　25名(申込先着順)
受講料　建築士会会員(準会員)35,000円、一般40,000円
■模擬テストⅠ・Ⅱ
日程　Ⅰ:9月1日(日)、Ⅱ:9月8日(日)
時間　9:30～16:30
会場　大阪府建築健保会館
定員　【各回】25名(申込先着順)
受講料　【各回】建築士会会員(準会員)13,000円、一般15,000円
※申込・詳細　http://www.aba-osakafu.or.jp/examination/index2.html

60周年記念シンポジウム
「くらしのエネルギーを考える」
～創るエネルギーと減らすエネルギーシンポジウム～
3/16　CPD3単位

くらしのエネルギーは現在どのくらい使われているのでしょうか。将来どのくらい変わっていくのでしょうか。将来も安心して暮らせる街と建物について、これからの「創る」と「減らす」について、みんなで考えてみませんか？
日時　3月16日(土)　10:00～16:15
会場　大阪府商工会館7階講堂
　　大阪市中央区南本町4丁目3-6
　　(大阪市営地下鉄本町駅17番出口)
プログラム
　10:00～　展示会
　13:00～　基調講演
　　藤村靖之
　　(非電化工房、日本大学工学部教授)
　14:15～　パネルディスカッション
　　下田吉之(大阪大学大学院教授)
　　藤村靖之
　　甲斐徹郎(㈱チームネット代表取締役)
　　鈴木重男(岩手県葛巻町長)
定員　300名(申込先着順)
入場料　無料

建築士のためのお茶会勉強会
3/20・3/26

建築士の礼儀作法のひとつとして、お茶の作法を学ぶため毎月開催している勉強会です。
日時　3月20日(水)、3月26日(火)
　　18:30～20:30頃まで
　　(原則毎月第3水曜日及び第4火曜日)
費用　年会費6,000円＋1回2,500円
　　(年会費はキャンセル時の水屋料などのため。但し途中入会の場合の年会費は年度末までの月数×500円となります。)
先生　藤井宗熙(そうき)先生

国内初の耐火木造オフィスビル
「大阪木材仲買会館」見学会
3/28　CPD2単位(予定)

木材利用促進・大規模木造建築物の普及を目的に、木材の特性を活かし、デザインの可能性を追求することをコンセプトに建設された耐火木造オフィスビルの見学会です。今後の公共・民間建築での木造・木質化の推進に貢献することが期待されています。
日時　3月28日(木)　14:00～16:00
募集　50名(申込先着順)
講師　大阪木材仲買会館事務局
会場　大阪木材仲買会館　西長堀5分
　　大阪市西区南堀江4-18-10
参加費　1,000円(会員) 2,000円(会員外)

シニアサロン第47回例会
フェスティバルホール見学会
3/29　CPD2単位

1958年に開館し、クラシック音楽、オペラ、ポップス、ジャズなど国内外の一流アーティストの舞台として多くの人から愛され、「天井から音が降る」と評された旧ホールの特長を活かしつつ、音響設備等を一新した、新フェスティバルホールが4月にオープンします。シニア分科会では、柿落とし直前のフェスティバルホールの見学会を企画しました。見学会終了後、懇親会も計画しています。
日時　3月29日(金)　14:00～16:30
集合　13:30
集合場所　中之島フェスティバルタワービル玄関前
　　(地下鉄四つ橋線肥後橋駅下車)
定員　40名(申込先着順)
申込期限　3月11日(月)
　　(但し、定員になり次第締切)
参加費　1,000円
懇親会参加費　別途4,500円
※申込者には、後日参加証を送付

CORE2013
～committee of annual report 2013～
4/13　CPD3単位

青年分科会・女性分科会・国際交流分科会・住宅を設計する仲間達を中心に2012年一年間の建築士会活動の合同発表会を開催いたします。建築士会の会員メリット、分科会参加による活動展開の可能性を感じていただける場です。1人で出来ないことも集うことで、大きなイベントや楽しいことがたくさん出来ます。まだ士会活動をしていない知人・友人の方に是非お声をかけてください。新しい仲間づくり・ネットワークづくりを楽しみましょう。
日時　4月13日(土)　13:00～16:00
場所　キッチンハウス大阪店　4階
　　大阪市西区新町1-7-20
定員　50名(申込先着順)
参加費　500円(資料代)

国際文化サロン
「南イタリア・地中海文化と世界遺産都市を巡る」
4/27　CPD4単位(予定)

多くの世界遺産が残る南イタリアの特徴的な都市を紹介し、ワインの試飲も致します。五感で味わうイタリアをお楽しみ下さい。
日時　4月27日(土)　受付:13:30～14:00開会
場所　キッチンハウス大阪ショールーム
　　地下鉄四ツ橋駅下車すぐ
講師　河野　学(本会青年委員・国際委員)
スライドショー　神保　勲(本会理事・国際委員)
ワイン試飲　ピーロートジャパン
後援(予定)　在大阪イタリア領事館・
　　イタリア文化会館
参加費　1,500円(資料代含む)
定員　50名

本会の催し参加申込方法

FAX・メール・郵送で、催し名、参加者名、会員No、勤務先、参加証送付先住所、同電話&FAX番号(自宅又は勤務先)を明記の上、事務局までお送り下さい。

問合・申込
大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP http://www.aba-osakafu.or.jp/

Administration
行政からのお知らせ

建築確認手続きにおける建築士免許登録の有無及び定期講習受講状況の確認について

平成25年1月より、建築主事及び指定確認検査機関において、建築確認手続きの中で建築士の免許登録の有無及び定期講習の受講状況を確かめていただきますよう技術的助言を送付し要請しました。
国土交通省住宅局建築指導課

「堺市都市計画法に基づく市街化調整区域内における開発行為等の許可に関する条例」の改正に伴う経過措置の終了について

市街化調整区域での新たな住宅開発を抑制するとともに、緑地と農地の保全や活用による緑豊かな環境と共生するまちづくりを推進することを目的として、「堺市都市計画法に基づく市街化調整区域内における開発行為等の許可に関する条例」の改正により、昨年、都市計画法第34条第11号に関する規定が廃止されました。
土地所有者の方への影響が大きいことから、急激な変化とならないように経過措置を設けましたが、平成25年6月30日までに「堺市開発行為等の手続に関する条例第4条第3項」の規定に基づく要否判定書が発行されない場合、経過措置は終了となり、市街化調整区域内での住宅開発が認められなくなります。
○経過措置
平成24年6月30日まで改正前の条例の適用が可能な土地を対象に、平成25年6月30日までに要否判定書が発行されれば、開発審査会の議を経て許可を受けることができます。また、要否判定書が発行されたときから1年以内に都市計画法による手続きを進める必要があります。なお、要否判定書の発行にあたっては、要否判定依頼書を提出して頂いてから約2週間程度の時間を要しますのでご注意ください。
問合　堺市建築都市局開発調整部開発指導課
　　Tel.072-228-7483

Others
その他のお知らせ

平成24年度下期建築物防災週間関連行事
建築物防災講演会
CPD3単位

主催　(一財)大阪建築防災センター
■1部講演テーマ
企業や組織が大規模災害を生き残るための備えとは　～危機の時代を乗り越える事業継続マネジメント～
講師　伊藤　毅
(㈱富士通総研BCM事業部長
NPO法人事業継続推進機構副理事長)
■2部講演テーマ
阪神と東北の両方で被災した防災士が間違った防災を斬る
講師　山口泰信
(㈱BCPJAPAN代表取締役)
日時　3月7日(木)　13:30～16:30
会場　建設交流館8階グリーンホール
　　大阪市西区立売堀2-1-2
聴講料　無料
定員　250名(定員になり次第締切)
申込　電話にてお申し込み下さい
　　(一財)大阪建築防災センター
　　Tel.06-6943-7253
http://www.okbc.or.jp

近畿で想定される超大地震に備える～鋼構造分野の取組～
CPD対象行事

鋼構造研究者ならびに設計者から超巨大地震対策に関する話題提供をいただき、1995年の兵庫県南部地震での大きな被害を身をもって体験した研究者・設計者が多く住む近畿から情報発信をしたいと思います。
研究者側からは超大地震時の建物挙動を明らかにするという観点から、建物の倒壊解析、主要構造部の破断、外装材の挙動に関する話題提供を、また、日本建築構造技術者協会関西支部を中心として立ち上げられた「大阪府域内陸直下型地震に対する建築設計用地震動及び設計法に関する研究会(大震研)」で検討されている建築物への入力地震動・設計法について検討例を交えて話題提供をいただきます。
主催　(一社)日本建築学会近畿支部
共催　(一社)日本建築構造技術者協会関西支部
日時　3月18日(月)　13:00～17:00
会場　大阪科学技術センター8階中ホール
　　大阪市西区靭本町1-8-4
定員　100名(申込先着順)
参加費　2,000円(資料代含)
問合・申込　(一社)日本建築学会近畿支部
　　Tel.06-6443-0538
http://kinki.aij.or.jp/

京都府建築士会創立60周年記念事業
(社)京都府建築士会建築家セミナー2013
谷尻誠講演会「考えつづけること」
CPD2単位

主催　(社)京都府建築士会青年部会
日時　3月22日(金)　18:30～20:30
会場　ウィングス京都2階イベントホール
　　京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町262
入場料　無料(要事前申込　先着順)
定員　240名
問合・申込　(社)京都府建築士会
　　Tel.075-211-2857
http://www.kyotofu-kenchikushikai.jp/

平成25年 鉄筋コンクリート系マンション健康診断技術者講習会(大阪会場)

建築基準法第12条第1項に基づき定期調査を行う特殊建築物等調査資格者、一級建築士、二級建築士を対象に、特に鉄筋コンクリート系マンションの定期調査に秀でた定期調査専門技術者を養成して、マンション管理組合における適正な維持管理をサポートするため、講習会を開催します。
主催　(一財)日本建築防災協会
日時　3月27日(水)　9:50～17:00
会場　大阪YMCA会館2階ホール
　　大阪市西区土佐堀1-5-6
定員　150名
受講料　18,000円(テキスト・技術者証代含)
テキスト　鉄筋コンクリート系マンション健康診断技術者講習テキスト(平成25年版)
申込締切　3月8日(金)
但し、定員になり次第締切
問合・申込　(一財)日本建築防災協会
　　Tel.03-5512-6453
http://www.kenchiku-bosai.or.jp/workshop/index.html

第12回村野藤吾建築設計図面展
ー都市を形づくる村野藤吾のファサードデザインー

本展では、村野藤吾が都市の中で試みた大小21件の建築作品を取り上げて、端正で格調の高いデザインに込められた建築思想の在りかを確かめてみたいと思います。
会期　開催中～5月6日(月・祝)
休館日　日曜・祝日、3/12(火)・3/13(水)。
　　ただし4/28日(日)～5/6日(月)までは毎日開館。
時間　10:00～17:00(入館は16:30まで)
会場　京都市左京区松ヶ崎御所海道町
入場　一般200円
■記念シンポジウム
日時　4月20日(土)　14:00～17:00
　　(開場:13:30)
会場　京都工芸繊維大学60周年記念会館
　　1階記念ホール
テーマ　村野藤吾の都市へのまなざし
パネリスト
　塚本由晴(建築家・東京工業大学大学院准教授)
　酒井一光(建築史家・大阪歴史博物館学芸員)
司会　松隈　洋
　　(京都工芸繊維大学美術工芸資料館教授)
定員　150名
入場　無料(当日先着順)
問合　京都工芸繊維大学美術工芸資料館
　　Tel.075-724-7924

生涯学習文化講座「近代建築探訪」

明治以降に建てられた大阪、堺、岸和田、奈良などの近代建築を講師が撮影したスライドの懐かしい幻燈で解説、現地見学。
3月から開講。第2、4の火曜日。
定員　20名
会場　薬業年金会館(地下鉄谷町線谷町6丁目駅)
講師　明治建築研究会　柴田正己
問合　澪漂　Tel.06-6944-0869

大阪市立美術館
第44回　日展

全国を巡回する基本作品275点に加えて、大阪・奈良・和歌山・兵庫の地元入選作品331点の、合わせて606点を陳列します。
会期　開催中～3月17日(日)
開催時間　9:30～17:00
　　(入館は16:30まで)
休館日　月曜日
観覧料　一般1,000円
会場　大阪市立美術館(天王寺公園内)
　　大阪市天王寺区茶臼山町1-82
問合　大阪市総合コールセンター
　　なにわコール(年中無休8時～22時)
　　Tel.06-4301-7285
http://www.osaka-art-museum.jp

大阪市立東洋陶磁美術館
特集展「人間国宝 濱田庄司の茶碗ー堀尾幹雄コレクションー」

会期　開催中～3月31日(日)
時間　9:30～17:00(入館は閉館30分前まで)
休館日　月曜日
観覧料　一般500円
展示点数　約20点
会場　大阪市立東洋陶磁美術館
　　大阪市北区中之島1-1-26
問合　大阪市立東洋陶磁美術館
　　Tel.06-6223-0055
http://www.moco.or.jp

大阪市立東洋陶磁美術館
特別展「森と湖の国 フィンランド・デザイン」

会期　4月20日(土)～7月28日(日)
時間　9:30～17:00(入館は閉館30分前まで)
休館日　月曜日(4/29、5/6、7/15は開館)
　　5/7、7/16
観覧料　一般1,000円
展示点数　約150件(約400点)
会場　大阪市立東洋陶磁美術館
　　大阪市北区中之島1-1-26
問合　ハローダイヤル　050-5542-8600
http://www.moco.or.jp

谷尻誠講演会「考えつづけること」
谷尻誠氏建築作品

第44回日展　白い函館　樋口　洋
内閣総理大臣賞(洋画)

特集展「人間国宝 濱田庄司の茶碗ー堀尾幹雄コレクション」
掛分指描茶碗　大阪市立東洋陶磁美術館蔵

特別展「森と湖の国 フィンランド・デザイン」アールトの花瓶9750/3030
K.カッコネン氏蔵(撮影 ティモ・シュルヤネン)

蔵書管理・有効活用に関するお知らせ

本会の事務局経費の見直しにより３月末に事務局スペースのレイアウトを変更します。その結果生じる書籍保管スペースの減少に伴い、現在、本会事務局に保管されている蔵書の利用・管理方法の見直しと整理作業（書籍の整理・処分、建築系大学等への寄贈）を行っております。整理後は、蔵書の詳細を会員に開示し、新刊雑誌を含む図書の自由な閲覧制度の確立も含めて、建築人及びホームページで逐次公開してまいります。

会員各位におかれましては、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

建築情報委員会図書 WG

大阪府建築士会活動報告

建築士会をより健全に運営するために

岡﨑　雅（運営委員会委員長）

運営委員会は、他の事業活動を軸とした委員会と異なり、本会の機構や運営に関わる方針・規定等の策定や予算執行・決算に関わる財務運営を管理しています。

1．建築士会の運営管理

本会発展のための施策の立案と実施のために、運営担当副会長や担当理事の他に、活動組織の各委員長に参画いただき、本会の事業活動全体を見通せる構成としています。相互に他の委員会活動を知ることで全体の事業財政を把握し、類似事業の回避など合理的な判断が行えます。また一部の委員会等からの提案を本会全体のイベントとして捉え、相互に委員会協力することで事業の拡大に繋げ、会員建築士に留まらず建築社会にアピールできる事業に繋げています。例えば、二〇一二年の「震災に備えるアイデア募集」や「防災フォーラム」の実施、二〇一三年の「くらしのエネルギー（参加募集中）」は各事業担当委員会の横断的な協力体制を基盤として企画・実施されたものです。

2．建築士会の財務管理

運営委員会では、会費や共通支出の法人会計及び事業系の収支予算を確定し、執行管理をしています。各委員会においては、事業ごとの「企画立案・収支予算・決算（事業）報告」を運営の進捗に応じて承認することを指示し、赤字事業を回避する事業運営を促しております。また、委員の奉仕活動による経費削減をはじめとして、事務局人件費の削減、事務局スペースの縮小により大幅な支出歳費の縮減も行い財政の健全化に努めています。

3．会員増強の方策

人材を基礎とする社団法人にとって、創立以来より会員増強は普遍の課題です。本会は、建築士が建築情報等を入手できる窓口でもありますが、建築士個人で成し得ない活動を、会員協同の活動として建築社会に還元できることもメリットの一つです。会員が増えることは建築士会の活動基盤の強化・安定に繋がり、事業展開も社会に大きくアピールできるものへと繋がるものです。運営委員会では会員増強プロジェクトチームを立ち上げ、地域活動の活性化、若手建築士への企画、学生企画との共同など、会員増強施策とあいまって社会が求めるものを探求することが本会の将来ビジョンを確定するものと考えております。

岡﨑　雅
アーキ・プランニング・オフィス 代表
統括設計専攻建築士
1956年 和歌山県みなべ町生まれ
1980年 京都工芸繊維大学
工芸学部住環境学科卒
1980年～2009年
株式会社 新井組 勤務

建築人（けんちくびと） 次号予告

季刊号の特集企画として大好評の「建築人（けんちくびと）」。建築そのものではなく、建築に関わる人に焦点をあて掲載する「建築人（けんちくびと）」は次号から二年目になります。次号の「建築人（けんちくびと）」は、建築人賞第一回から第五回まで審査委員長として深く大阪府建築士会会報誌「建築人」に関わって頂いている石堂威氏にインタビューをおこないます。

2012年４月号
吉村篤一

2012年７月号
安原三郎

石堂威

2012年10月号
矢田朝士

2013年１月号
木原千利

理事会報告

文責　本会事務局

日時　二月十三日(水)十六時～十七時三十分
場所　本会会議室
出席　理事四七名(委任一六名含)　監事二名
　名誉会長、顧問、相談役他六名

(1)二四年度収支決算見込み報告
本年度の決算見込みを、収支差引約三六〇万円の黒字予測としている。収入では、情報発信事業の終了決算でDMや年賀広告収入等の収入増加により収支の改善が見込まれる。また、今後のCPD登録や木造耐震講習会、定期講習で年度末までの収入も見込まれる。支出では、地域の事業活動費を計上している。

(2)二五年度予算案の考え方
各委員会委員長より二五年度委員会事業予算案の考え方の説明があり、三月度理事会までに予算案を策定する。

(3)評議員会(二月七日)の報告
公益法人移行に伴い評議員が役員から外れることになり、二四年度をもって評議員会を解散する。理事候補者の選出方法については、選挙人による間接選挙、正会員による直接選挙、会長指名及び委員会や地域からの推薦性等の意見があり、理事会で継続して検討する。

(4)二五年度理事候補者選挙結果
副会長二名、理事一三名、監事一名が選出された。

(5)応急危険度判定活動の連絡先調査
大地震発生時に大阪府からの要請により、本会所属の応急危険度判定士に参集を呼びかける連絡網構築のための連絡先調査を行う。

(6)木造住宅耐震診断技術者紹介協力団体として大阪建築防災センターへ登録
本会耐震部会所属の二九名の耐震診断技術者を、大阪建築防災センターへ登録した。

建築相談

建築士の見たトラブル事例(八)

立場が対立する長屋解体の相談

編・構成　橋本頼幸

今月の「建築相談」コーナーは、相談員の宮崎雅司様にお話いただきました。大阪の密集市街地では連棟長屋がまだまだ多く、連棟長屋の切り離しに伴う電話相談もかなり多く寄せられます。連棟長屋を切り離す側、切り離される側、そして、連棟長屋切り離しに係わる設計者や施工者などなど。

ちょうど二月の建築相談員の研修会でも、連棟長屋について議論されました。相談者も、立場によって言いたいこと、要求したいことが変わってきます。それらについて宮崎さんに提案いただきました。

まず、相談事例を三つ提示しましょう。

①解体する側から「共有している壁面については補修を行うが、増築部分の外壁を共有していない部分については補修をしない」と言われた。解体される側としては、隣の家があるために外壁の仕上げをせず、かつ必要がなかったが、解体する側で雨よけなどの処置はしてもらいたいがどうしたらよいか?

②解体する側から「補修はするが一般的な(最低限の)仕様で行う」と言われ、解体される側の「希望」は受け入れてもらえない。解体される側としては、補修するのであれば、見栄えよくもう少しグレードを上げた材料を使って欲しいと思っているがどうしたらよいか?

③解体する際に建物の補償調査(家屋調査)の提案があり、口頭では室内の床下も調査すると言われたが、実際には床下を見ることもなく調査が終わった。隣との間の基礎は、解体してからでは状況変化がわからないのに、きちんと調査して欲しかった。この場合、どうしたらよいか?

皆さんがこれらの相談を受けたときどうされますか?相談のタイミング(解体前なのか、解体中なのか、解体後なのかなど)や交渉の段階(自分の要求をどの程度伝えたのか、相手の回答をどの段階で受け取ったのかなど)によってアドバイスが変わってくるかもしれません。またどの立場、だれからの相談かによってアドバイスの内容が変わるかもしれません。

このような場合、宮崎さんは相談者に対してこのように回答されるとのことです。「解体する(補修する)側はなるべく負担を少なくしたいと考えます。解体する側から見れば、勝手なことを言う隣人の要求を聞き入れる必要は無いと判断するでしょう。どちらがどの程度工事するべきかを明確に区分し権利義務をただ主張するだけでは、双方譲歩しにくくなり、解決から遠ざかります。責任の区分は明確にしておく必要はありますが、こちらの希望や要望に加えて、必要な費用は負担するつもりがあることを伝えて、相談してみてはいかがでしょう。」

さらに、宮崎さんはこのように加えます。「どちらかが一方的に言いっぱなし、聞きっぱなしになってしまうと、問題を複雑化させています。対話の必要性を理解してもらうことが、解決につながる近道で、そのようなアドバイスをするのも建築士の役割ではないでしょうか?」

冒頭のとおり、電話相談では連棟長屋に関する相談が多くあります。技術的なアドバイスをすることが建築士の本来の役割ではありますが、物理的にも感情的にも近かったり、あるいは反目し合ったりする関係になりがちな連棟長屋のお隣さんどうしでは、技術的なアドバイスを超えて、双方に具体的な解決の道筋を示すことも必要なことなのかもしれません。

大阪ホンマもん解説

写真　田籠哲也　文　牧野高尚

今年度の最後を飾る大阪ホンマもんは日本を代表する建築家 村野藤吾氏が手掛けた梅田吸気塔。設計は村野・森建築事務所で昭和三八年(一九六三年)に竣工。

村野氏は初代大阪府建築士会会長であった渡辺節氏に師事し、ダイビル本館や綿業会館などの設計を担当。その後、昭和四年(一九二九年)に事務所を開設し、数々の名建築を産み出した。また、大阪府建築士会の創設期に理事をされており、渡辺氏に続き関西建築界を牽引してきた。

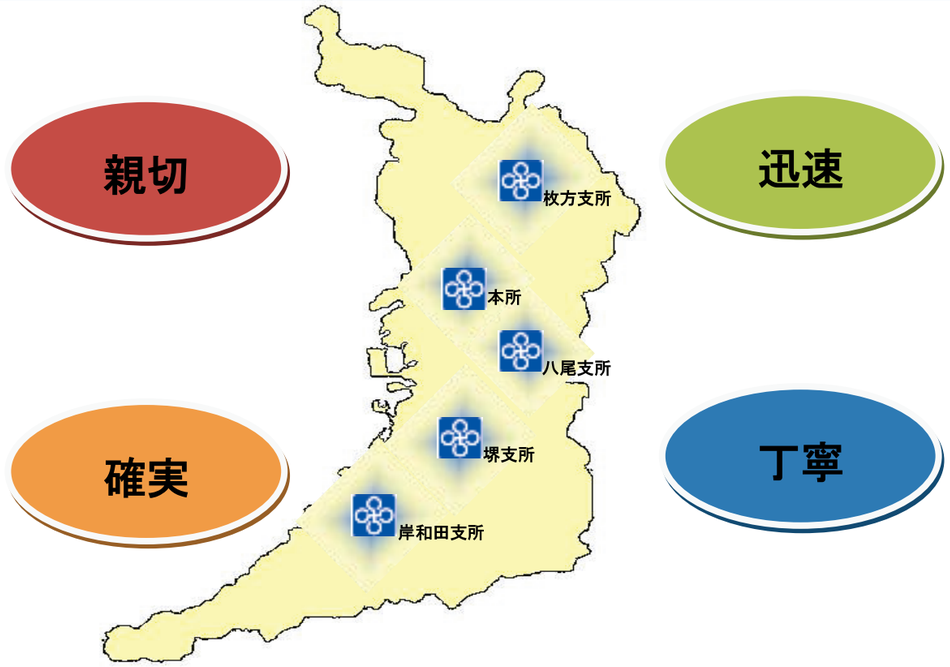
吸気塔は周囲を道路で囲まれ、さながら無人島とおぼしき地面から生え出してきたその様は、まるで生き物を想像させる。ステンレス製の鱗をまとった有機的形態は夜間にライトアップされ、行き交う人々の目を惹きつけてやまない。

ホンマもんを晩年まで精力的に創り続けてきた建築家 村野藤吾氏。魂を注がれ力強く生き残る術を身に付けたこの吸気塔は、時代に翻弄され背景(風景)が変わり続けても、その存在を示し続けると信じたい。

建築人　3
2013

監修　社団法人大阪府建築士会　建築情報委員会
編集　建築情報委員会『建築人』編集部
編集人代表　米井　寛
編集人　荒木公樹　飯田英二
筑波幸一郎　橋本頼幸
牧野高尚
事務局　山本茂樹　母倉政美
印刷　中和印刷紙器株式会社

一般財団法人
大阪建築防災センター
建築確認検査機構
好きやねんこの街この家！　守ろう安全　築こう安心。



【業務範囲】
◆　建築基準法に基づく建築確認と検査
◆　フラット35（適合証明）
◆　住宅瑕疵担保責任保険
（まもりすまい保険・JIO我が家の保険・ハウスプラスすまい保険・あんしん住宅瑕疵保険）

【本所・支所】
本所(中央)　大阪市中央区谷町3-1-17ジョイント大手前ビル2階　TEL 06-4794-8270
枚方支所　枚方市大垣内町2-5-7宮村第2ビル5階　TEL 072-861-5088
岸和田支所　岸和田市宮本町27-1泉州ビル3階　TEL 072-429-3660
八尾支所　八尾市本町1-4-1YLBタニムラビル3階　TEL 072-998-0530
堺支所　堺市堺区新町3-7STCビル4階　TEL 072-238-8282

【住宅性能評価業務】
一般財団法人 大阪住宅センター分室（本所フロア内）　TEL:06-4790-9717

龍谷ミュージアム　日建設計　赤木隆＋下坂浩和

龍谷大学創立370周年事業のひとつとして開設された龍谷ミュージアムは、仏教に関する総合博物館である。

堀川通りと油小路にはさまれた敷地は、西側は大通りをへだてて西本願寺と向かい合い、東側には小路に沿って門前町が広がっている。

建物の外観は西本願寺界隈の景観に配慮して屋根は3寸勾配の切妻とし、京都市の景観政策にあわせて棟の高さを15mにおさえた。一方でミュージアムが必要とする展示室と収蔵庫のヴォリュームを地上に確保するため、エントランスホールや事務部門を街路から3m下がった地下に配置し、京町家の伝統でもある中庭を地下レベルに設けた。

展示室を堀川通り側2、3階に配置し中庭の明るさが通りから感じられるように、1階はスパン約35メートルのピロティの奥をガラス張りとした。また、建物の下をくぐって東西ふたつの通りをつなぐ通り抜け路地を設けることで開かれたミュージアムを具体化し、周辺の門前町に貢献することに配慮した。

外観を特徴づける西側ファサードの簾状セラミックルーバーは、展示室のコンクリートの量感を視覚的に和らげるだけでなく、西日が直接壁にあたらないように日射遮蔽の役割も果たしている。波打つ躍動的な形は西本願寺が所蔵する三十六人歌集の中から水の流れを描いた伝統模様を建物にあわせて翻案し、ミュージアムの活発な活動が波紋のように広がる様をイメージしながらデザインした。

撮影：東出清彦　第58回大阪建築コンクール大阪府知事賞受賞作品

■プロフィール

赤木　隆
1953年 兵庫県生まれ
1972年 兵庫県立兵庫工業高等学校建築科卒業
1972年 日建設計入社
現在 日建設計 設計部門 デザインパートナー

下坂浩和
1965年 大阪府生まれ
1988年 神戸大学卒業
1991年 同大学院修士課程終了後、日建設計入社
現在 日建設計 設計部門 設計主管

■建物データ

設　　計：日建設計
施　　工：淺沼組
所 在 地：京都市下京区西中筋通正面下る丸屋町117他
竣　　工：2010年7月
構造規模：鉄筋コンクリート造一部鉄骨鉄筋コンクリート造及び鉄骨造 地下1階 地上3階
敷地面積：1,671.69㎡
延床面積：4,412.65㎡

建築人　No.585　平成25年3月1日発行　発行人：会長／岡本森廣　発行所：社団法人大阪府建築士会　〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 ジョイント大手前ビル5F　tel.06-6947-1961